

実態	学力状況		学習・指導の状況		いじめ・不登校の状況					体力の状況		
	各種調査結果	R5年度 市の学力状況調査（全国平均正答率を上回った観点） 4年 国語5／5 算数5／5 5年 国語5／5 算数4／5 6年 国語4／5 算数1／5	【学習の喫緊の課題】 ○理解しているが、時間が経つとできなくなる傾向がある。（定着が不十分） ○活用することや読解問題を苦手としている。		R3	R4	R5	【生活指導の喫緊の課題】 ○相手の気持ちを思いやる言動ができていない児童が若干名いる。 ○いじめの解消率については、前年度より上がっているものの、まだまだ低い。		運動愛好度	R5全国値以上種目数	
				いじめ認知件数	20	23	11		男子	100%（5年）	27／48	
				いじめ解消率%	75%	76%	64%		女子	50%（5年）	38／48	
				不登校不登校数	2	2	2		【体力／運動の喫緊の課題】 ○体力テストにおける握力・50m走に課題がある。 ○運動愛好度は、高学年ほど個人差がある。			
				不登校内新規	0	0	0					
不登校復帰率%	0%	0%	0%									
テストの喫緊の課題 文章の読解力が不足しているため要約や考察して書く力が弱い。 算数では、筋道を立てて考え、立式して計算することが苦手。												

学校の教育目標	育成を目指す資質・能力	重点目標：めざす児童生徒像			達成指標	資質能力	担当	重点的取組		取組指標 誰が・何を・頻度	取組評価	達成状況の確認		考察・改善								
		知識技能	思考判断表現	学び人間性								根拠	評価									
		筋道を立てて考え表現する力	知・徳・体でバランスの取れた基礎・基本の習得	しっかり学ぶ子	理由をつけて自分の考えが言える子	考えを深め合える子	・児童アンケートで「自分の考えを理由つけて言えた」の肯定的回答80％以上にする。 （R5 末 92％） ・教職員アンケートで「児童は自分の考えを理由をつけて言えた」の肯定的回答を50％以上にする。 （4月 12％）	思考・判断・表現	学習部 (知)	授業改善テーマ	取組内容	○教師が1日の授業の中で1回以上【考えの言葉】を意識した活動を設定する。 ○グループ（又はペア）の話し合い活動を算数のひと単元に2回以上設定する。	S	児童アンケートで「自分の考えを理由つけて言えた」の肯定的回答が87.5％ 教職員アンケートで「児童は自分の考えを理由をつけて言えた」の肯定的回答が100％	S	今後も「考えの言葉」を意識した活動を増やす。また、教師が授業の中で児童に使わせたい「考えの言葉」を想定し、より明確な指示を出すようにする。話し合い活動において、友だちの考えを聞き、質問したり自分の考えを伝えたりする児童をめざす。						
				使っている子	互いを認め合える子	協力できる子	・児童アンケートで「相手の気持ちを思いやる優しい言動ができた」の肯定的回答を80％以上にする。 （R5末 94％） ・教職員アンケートで「相手の気持ちを思いやる優しい言動ができた」の肯定的回答を75％以上にする。 （4月 87％）	知識・技能		生活指導部 (徳)	○人間関係づくりプログラムの実施 ○縦割り班活動・集会の充実						○教師が人間関係づくりプログラムの場で、子どもの心に響く実践を月に2回以上行う。 ○教師が優しい言動ができた児童を評価する声かけを1日に1回以上する。また優しい言動をした児童を評価する場を設ける。（帰りの会等） ○教師が、縦割り班活動や集会活動の中で、優しい言葉で交流する場（話し合いや振り返りの会等）を週1回以上設定する。	A	児童アンケートで「相手の気持ちを思いやる優しい言動ができた」の肯定的回答87.5％ 教職員アンケートで「児童は相手の気持ちを思いやる優しい言動ができた」の肯定的回答90.9％	S	肯定的回答は目標を上回ったが、優しい行動はできても言葉で伝えることが苦手な児童も若干名いる。今後も、人間関係づくりプログラムを充実させることで改善を図っていく。	
											体力をつけようとする子											進んでチャレンジする子
			杵築市の今日的課題：重点目標 ICTの効果的活用（頻度）				・児童アンケートで「タブレットを学習に生かした」の肯定的回答を75％以上にする。		○授業中のタブレットの効果的な活用		○教師は授業中に週1回以上【考えの共有】【ふりかえり】等でタブレットを活用する。	A	児童アンケートで「タブレットを学習に生かした」の肯定的回答80.4％ 教師アンケートで「教師は授業中に週1回以上【考えの共有】【ふりかえり】等でタブレットを活用する」の肯定的回答が90％	S	学習の中でICTを使っている。学年間に差があるため、教職員のICTの効果的な活用についての研修を行う。また「タブレットを学習に生かした」の基準を明確にし、共通認識できるようにする。							
			担 当							重点的取組				評価	考察・改善							
			家 庭							学習・生活習慣の確立（頑張りカードの推進とメディアコントロール＜スマホ・タブレット等の使用のきまり＞の推進				A	頑張りカードの実施により、学習のめあてに向かって頑張り、スマホやタブレットの決まりを守るうとする姿があった。一方で、児童と保護者との共有が図れていない事例もあった。研修部で今後の取り組みを検討する。							
			地 域 （学校運営協議会）					環境安全推進部		登校時の安全指導と声かけ運動				A	登校時の安全指導や声かけ運動、通学路の整備等を行った。							
								学習支援部		地域交流計画の実施と読み聞かせ・ゲストティーチャーなどの学習支援				A	地域交流計画をもとに、麦刈り・三世代グラウンドゴルフ大会の練習・田植え・読み聞かせ等の活動を行った。							